



我が家の防災対策

家の中の安全対策

1 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめておく。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。



2 寝室、子供やお年寄りのいる部屋には倒れやすい家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性があります。



3 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



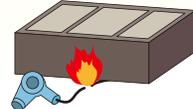
4 安全に避難するため、出入口や通路にもものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、倒れやすい家具などを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



5 電気火災発生の防止

大地震が発生した際には、多数の火災が発生し、多くの人が命や財産を失っています。地震火災の原因の多くは電気が関連しており、電気機器等(電気ストーブ、電気コンロ等)の転倒による出火や、電気復旧時における通電火災(破損した電気コードのショートによる出火等)があります。このような電気火災を防ぐため、感震ブレーカー*等を設置しましょう。

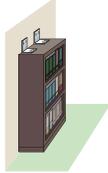


*感震ブレーカーについては8ページをご参照ください。

家具の転倒、落下を防ぐポイント

タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



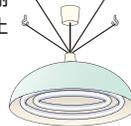
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下に、軽い食器は上の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



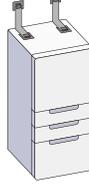
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



冷蔵庫

転倒防止器具で壁に固定する。L字金具、支え棒、転倒防止ベルトなどで固定する。



テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(背の高い家具の上はさける)。



ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の周囲の安全対策

屋根

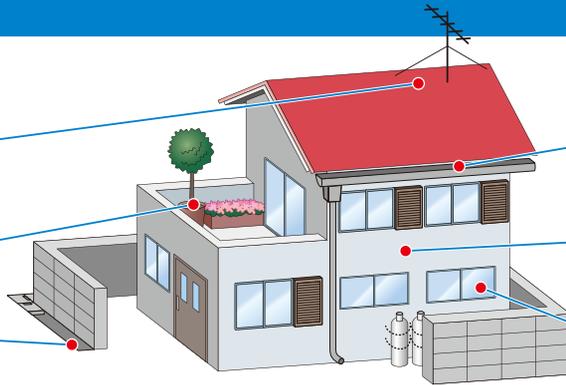
不安定な屋根のアンテナの補強。瓦のひび、割れ、ずれ、はがれはないか。トタンのめくれ、はがれはないか。

ベランダ

鉢植えや物干し竿など飛散の可能性が高いものは室内へ。

側溝

側溝が詰まると、道路冠水や浸水の原因になります。日頃からの清掃にご協力をお願いします。



雨どい・雨戸

雨どいに落ち葉や砂が詰まっていないか。継ぎ目の外れや塗装のはがれ、腐りはないか。雨戸にガタツキやゆるみはないか。

外壁

外壁に亀裂はないか。板壁に腐りや浮きはないか。プロパンガスのボンベは固定されているか。

窓ガラス

ひび割れ、窓枠のガタツキはないか。強風による飛来物などに備え、飛散防止フィルムを貼る。外側から板でふさぐなどの処置を。



停電対策

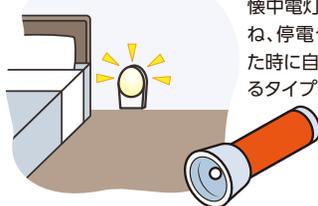
停電発生! そんなときどうする

当たり前のように使っている電気が、突然使えなくなったら…夜間の場合、安全に避難することや情報を入手することが困難になります。

備え① 安全に避難するためには

夜間の場合、出口がわからない、床の段差やガラスの破片が見えないなど、とても危険です。

→ リビングや寝室などに懐中電灯や足元灯を備えましょう。



懐中電灯と足元灯を兼ね、停電や地震が起きた時に自動的に点灯するタイプが有効です。



足元灯の設置が難しい階段などには、蓄光テープが効果的です。

備え② 災害情報を確保するためには

災害情報を得るにはスマートフォン・ラジオなどが必要になります。

→ 予備の電池やモバイルバッテリーを準備しておきましょう。



手動で充電できるラジオもあります。

停電時、屋内で救助を待つ場合や屋内での避難生活に備えて

家庭用医療機器等については必要な予備バッテリーを備え、停電時の電源の切り替え手順などを確認しておくことも必要です。

停電情報については東京電力パワーグリッドのホームページ(裏表紙参照)にてご確認ください。